

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年4月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第13週(3月29日～)から第17週(～5月2日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における4月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると22.72で3月の18.94と比べて少し増加した。新型コロナウイルス感染症対策の活動自粛と衛生管理により、日常的感染症は少ない状態が続いている。インフルエンザは15位0.00まで減少し、2020-21シーズンは、ついに流行のないままに過ぎ去った。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が12.76(4月1位11.02)、2位はRSウイルス感染症で4.21(同3位2.29)といずれも少し増加した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.66(同2位2.99)と減少した。4位は突発性発疹で1.70(同4位1.39)と少し増加した。5位は咽頭結膜熱で0.72(同5位0.63)とわずかに増加し、6位は流行性角結膜炎で0.66(同6位0.62)と横ばいだった。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界の患者数は図1左に示すように、5月5日には1億5397万人を、死亡者は322万人を超えた。患者数を国別で見ると、1位米国、2位インド、3位ブラジル、4位フランス、5位トルコ、6位ロシア、7位英国、8位イタリア、9位スペイン、10位ドイツである。インドでの増加は感染爆発と呼ぶにふさわしい状況で、30万-40万人/日の勢いで増加しており、感染者数第1位の米国を追いあげている。インドで確認された新たな変異株に対して大きな関心が集まっている。

日本の患者数を図1右に示す。12-1月に増加の勾配が急峻となった(第3波)が、2月-3月と加速度が緩んだ。しかし4月以降は再び急峻な増加となり(第4波)、英国型の変異ウイルス株が急速に拡大し、従来型のウイルス株から英国型に置き換わろうとしている。第4波は大阪、兵庫で顕著な感染拡大を起こし、医療逼迫を呼んだ。5月5日時点の国内の感染者は612,360人、死亡者は10,470人である。

COVID-19は高齢になるほど死亡率が高い。図2に示すように、日本での高齢者における死亡率は経時的に変化がみられる。80歳以上の患者における死亡率は、昨年6月11日時点では20.1%であったが、本年2月3日には11.7%まで低下していた。しかし、3月以降は13~14%台に上昇した。70歳台も下降の一途をたどっていたが、2月4.4%から3月以降は5.4%へと初めて上昇した。その理由として、医療体制逼迫の影響、ウイルスの強毒化などの機序が推測される。

高齢者施設でクラスター(感染者集団)発生が相次いで、飲食店でのそれをはるかに超えている。図3に年齢層別患者比率を示す。昨夏までは、20~30代の感染者が増加し、高齢者の感染は抑制されていた。しかし、その後は次第に年代ごとの増加率に差がなくなり、高齢感染者増加が目立つようになってきている。

決定的な抗ウイルス薬が登場していない現状で、この流行を終息に向かわせる方法はワクチンしかない。日本で使用することが決まったファイザー社とモデルナ社のワクチンはいずれもmRNAを用いた、全く新しい発想のワクチンである。感染予防率95%という不活化ワクチンとしては驚異的な有効性をもつ。医療者に続いて高齢者を対象としたワクチンの接種が進められている。大きな人口を抱えた都市ほど、接種の進みは遅いようである。

世界保健機関WHOは5月10日に、昨年インドで特定された変異ウイルス株B.1.67を世界的に懸念され追跡調査と分析の強化が必要な4番目の変異株Variant of Concern (VOC) に指定した。現時点で下の4種類の変異株がVOCとして注目されている。いずれもウイルス受容体を含むスパイク蛋白(ウイルス表面を覆い、受容体であるACE2蛋白に結合する)に関わる遺伝子変異を起こした株である。

① VOC202012/01: 英国での急速な感染者増加に関与し、日本の第4波における主たる流行株にとってかわ

った。伝播のしやすさを最大70%増加させる。この株が重症例を増加させるかについては意見が分かっている。日本で用いられるファイザー社やモデルナ社のワクチンは有効と推測されている。

- ② 501Y.V2： 南アフリカ保健省が2020/12/18に公表した。
- ③ P.1(もしくは501Y.V3)：ブラジルから日本に出国した4人から検出された。
- ④ B.1.67：インド型。

いずれの変異ウイルス株も既に日本ですでに検出されている。VOC-202012/01が大阪・兵庫から短い期間に全国に広まり、あっという間に主流のウイルス株となった様相は鮮烈であった。今後も変異株の登場は相次ぐと予想され、注意して監視する必要がある。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	13週	14週	15週	16週	17週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.34	2.55	3.22	3.95	3.89	15.95
2	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.74	0.81	1.12	1.39	1.20	5.26
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	0.55	0.68	0.79	0.74	3.33
4	突 発 性 発 疹		0.38	0.39	0.41	0.48	0.47	2.13
5	咽 頭 結 膜 熱		0.17	0.15	0.14	0.20	0.24	0.90
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.14	0.19	0.16	0.17	0.17	0.83

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の4月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると28.22で3月の12.58と比べて増加し、全国よりも多かった。増加の主因は感染性胃腸炎の増加である。

1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が21.8（3月1位7.24）と増加し、全国よりも多かった。2位は突発性発疹とヘルパンギーナが同率で並んだ。突発性発疹は1.8（3月3位1.21）と増加し、全国と同等だった。ヘルパンギーナは1.8（同2位2.04）でわずかに減少したが全国よりも多かった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.17（同5位0.67）と増加したが全国よりも少なかった。5位は咽頭結膜熱で0.86（同7位0.40）と増加し全国と同等だった。6位は流行性角結膜炎で0.79（同8位0.33）と増加し全国よりも多かった。

<高知県におけるCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に入って報告が急増し、511人/月に昇った。その後は1月184人、2月37人、3月33人と減少したが、4月123人、5月は10日までで83人と増加傾向で第4波を迎えている。図5に12月1日以降の日ごとの公表感染者数と感染経路不明者数を示す。県内では英国型変異株が過半数を占めている (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000774322.pdf>)。5月10日時点で感染者は1123人、死亡は20人である。

12月2日に、県の対応ステージを「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日には「特別警戒（赤）」引き上げた。対策が奏効して患者数が減少したので、1月22日に「警戒（オレンジ）」に、3月4日には「注意（黄）」に引き下げたが、4月5日に再び「警戒（オレンジ）」に引き上げゴールデンウィークを迎えた。県下でのワクチン接種が速やかにスムーズに進むことが切に期待される。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	13週	14週	15週	16週	17週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.82	2.75	4.93	8.04	9.71	27.25
2	突 発 性 発 疹		0.25	0.43	0.39	0.75	0.43	2.25
	ヘルパンギーナ		0.39	0.36	0.50	0.64	0.36	2.25
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.18	0.21	0.54	0.39	1.46
5	咽 頭 結 膜 熱		0.18	0.07	0.14	0.25	0.43	1.07
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.00	0.00	0.33	0.33	0.33	0.99

図1,2021年5月5日時点でのCOVID-19（厚生労働省HPから）

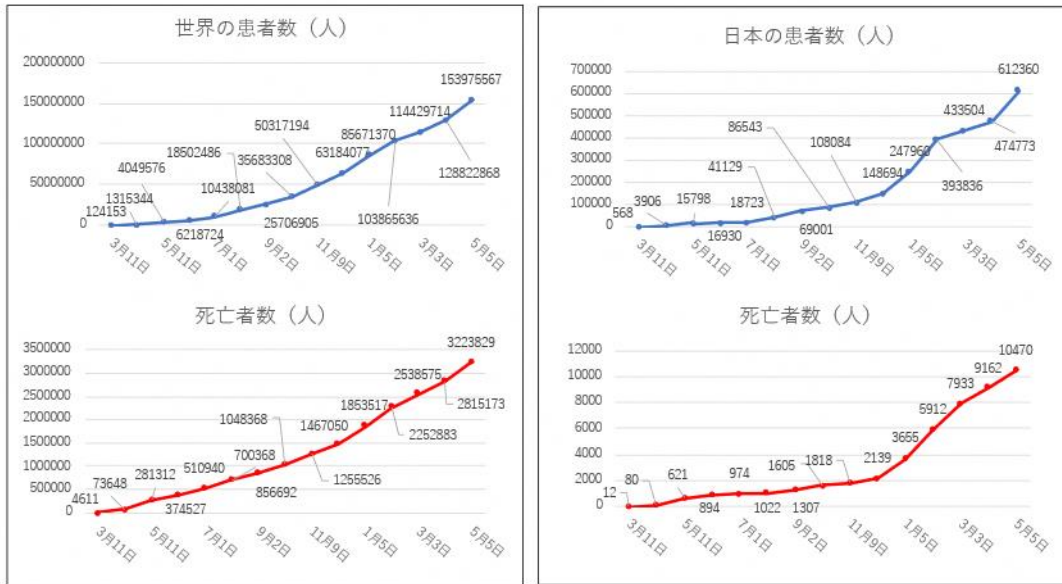


図2. 高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

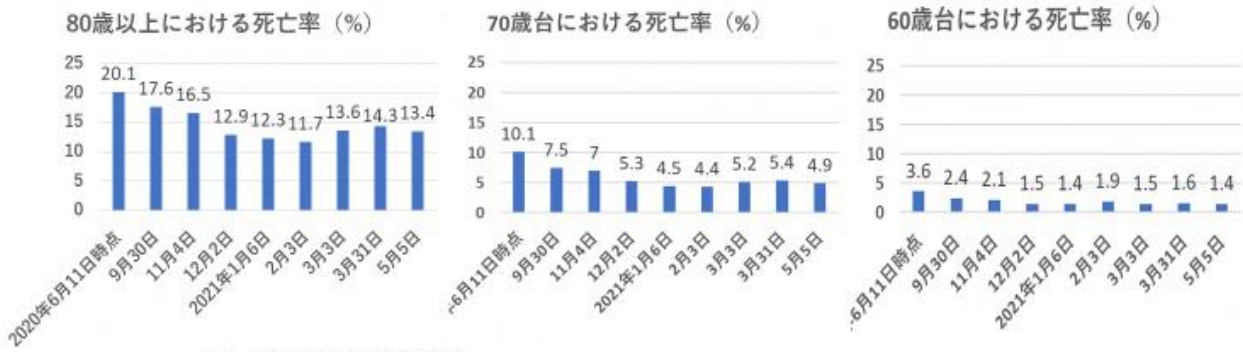


図3. 経時的な年齢層別感染者数 (人)

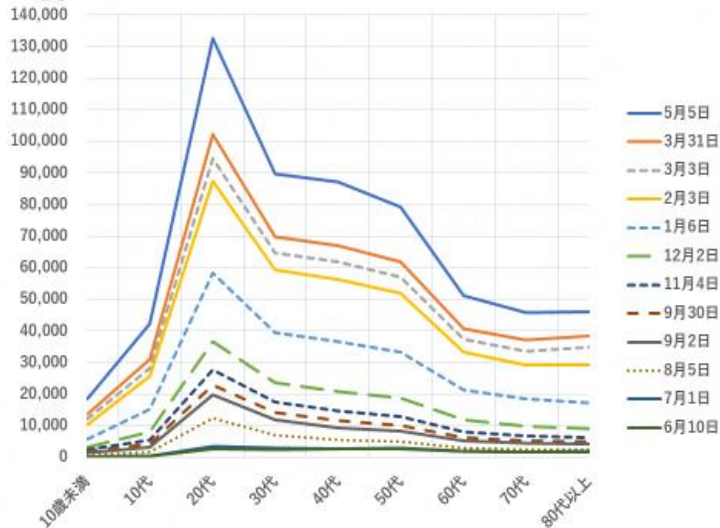


図4.高知県のCOVID-19月別患者数(人)
～2021年5月10日

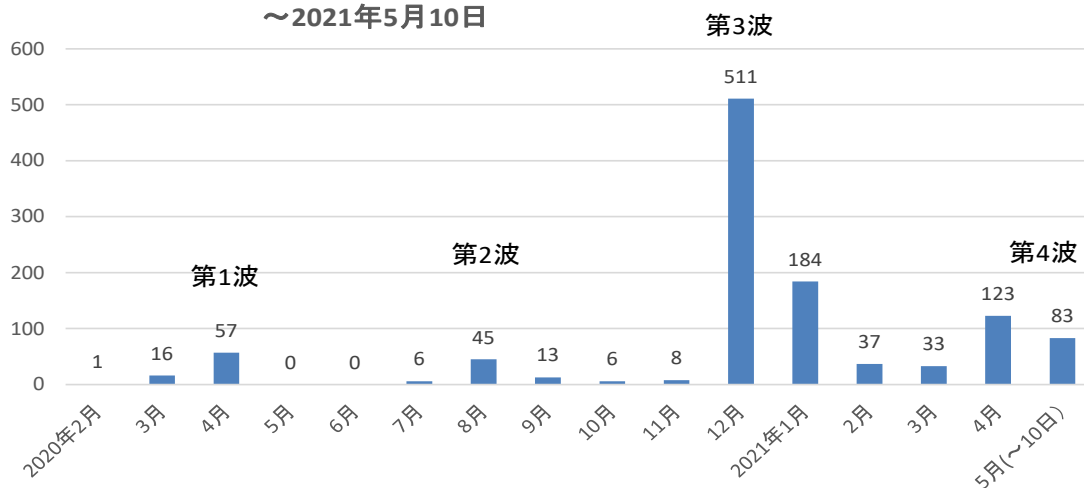
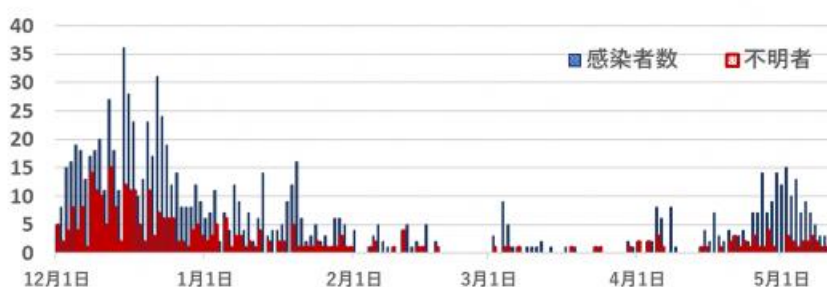


図5. 高知県の患者数と感染経路不明者数



2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

衛環研のCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施していない。

1) インフルエンザ

報告数 0名 (3月 1名)。2020-21年シーズンは、9月、2月、3月に各1名のみで報告され、ウイルスも検出されていない。全国では、10月106名、11月141名、12月328名、1月266名、2月249名、3月120名、4月は82名が報告されたが、本格的な流行は起きずに終息に向かっている。統計がある1998年以降の23年間で流行がないのは初めてである。COVID-19に対する感染対策によってインフルエンザの流行が封じ込められたと推測される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 30名 (3月 11名)。4月としては過去10年間で最も多い報告数だった。幡多、高知市、中央東、須崎から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 41名 (3月 19名)。増加したとはいえ、1月～4月は過去10年で最も少ない報告数で推移している。安芸以外の全域から報告され、特に須崎が多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 763名 (3月 203名)。2020年3月以降は、同じ時期として過去10年で最少の報告数で推移していたが、4月は増加し平年並の数に戻った。県下全域、特に中央西、高知市、中央東から多く報告された。

5) 水痘

報告数 15名 (3月 22名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。幡多、須崎、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 11名 (3月 18名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いているが、流行規模は大きいものではない。県下全域からほぼ同様な頻度で報告された。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名 (3月 8名)。2020年9月以降は1けたの報告数である。中央東、高知市から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 63名 (3月 34名)。倍増したが、想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 63名 (3月 57名)。本来初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行し10月にピークをつくり、その後だらだらと続いている。全域から報告があり、とくに中央西、幡多、高知市から多く報告された。流行が遅かったために10～4月は過去10年で最多だったが、通年でみると大きな流行ではない。11月にCoxsackievirus A4型が2件、A10型が1件検出されている。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 6名 (3月 3名)。少ない数で推移している。高知市、中央西、幡多から報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 6名 (3月 0名)。2020年は3月以降減少し、流行期であるにも関わらず11月から異例のゼロが続いていた。4月になって高知市、幡多から計6名が報告された。九州、富山、大阪では流行がみとめられている。

12) 流行性角結膜炎

報告数 3名 (3月 1名)。高知市で3名報告された。

13) 細菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 2名 (3月 0名)。高知市と中央東から各1例報告された。年齢は40歳台と70歳以上であった。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 1名 (3月 0名)。本年初となる例が高知市から報告され幼児例であった。年間20～30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も1名と少数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 2名 (3月 2名)。高知市と中央東から各1名が報告された。昨年11月以降は、同時期として過去10年間で最も少ない報告数が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名 (3月 25名)。平年並の推移である。高知市、中央東、幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (3月 0名)。2020年1月以降はゼロが続いている。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和3年4月）

類型	病名	報告年																				総計					
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021		
2	結核											131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	19	1829
	計											131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	19	1829
3	コレラ	1					1								1												3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1				207
	腸チフス			1					1									1					1				4
	バラチフス	2																									2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0			243
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1						2		34
	E型肝炎												1		1									2	1		5
	オウム病				1	1															1						3
	Q熱	1	1	2				1																			5
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	2		51
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3			93
	デング熱													1				3	2	1				2			9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	3			198
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1														6
	マラリア								2							1								1			4
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8			81
	レプトスピラ症												1		4	2	1					1					9
		計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	5		498
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3				47	
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				2	1	1	2	1	61	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	2	122	
	急性弛緩性麻痺																						1	2			3
	急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1		21	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				2	1	1	3		35	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1	3			1		3	5	6	2	2	3		31	
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6			81	
	ジアルジア症			1	2	1						1			1	1							1				8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3	4	7	3	1		24	
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	18	14	22	11	4	102	
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3			3		10	
	髄膜炎菌性髄膜炎												1														1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	22		253	
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5					9
	破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	36	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							1		1	1				5
百日咳																								173	172	35	380
風しん												1	1			4	9	1					3			19	
麻しん												5														5	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	33		1253	
新型	新型インフルエンザ																										34
	計																										34
動物	鳥インフルエンザ																										1
	計																										1
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	57		3858	

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年 4月

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ									1	4
小児科	咽頭結膜熱			5	10		1	14	30	11	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			10	13	2	7	9	41	19	154
	感染性胃腸炎	17	201	366	128	11	40	763	203	149	
	水痘			1	6		2	6	15	22	37
	手足口病	1	3	3	1	1	2	11	18	30	
	伝染性紅斑		2	1				3	8	31	
	突発性発疹	3	12	28	6	12	2	63	34	60	
	ヘルパンギーナ		5	22	16	2	18	63	57	2	
	流行性耳下腺炎			4	1		1	6	3	10	
	RSウイルス感染症			5				1	6		20
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				3				3	1	1
STD	性器クラミジア感染症				1				1	6	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ									1	2
	淋菌感染症		1					1	2		
基幹	細菌性髄膜炎			1	1				2		
	無菌性髄膜炎				1				1		
	マイコプラズマ肺炎		1	1					2	2	14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)										1
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		2	12				2	16	25	14
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計			21	244	477	154	36	96	1,028	411	549
前月			23	65	195	19	32	77			
前年同月			28	85	257	54	42	83			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2021年

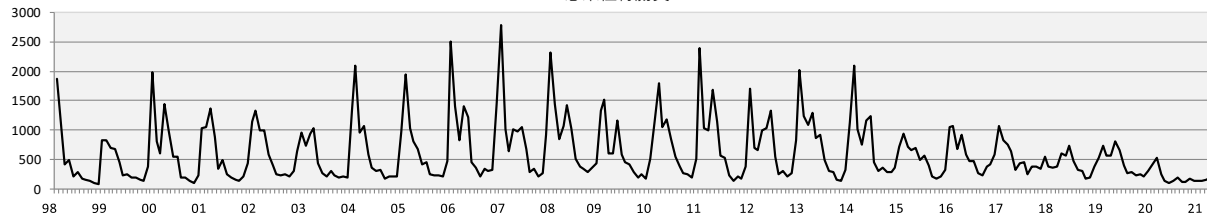
4月

定点当たりの人数

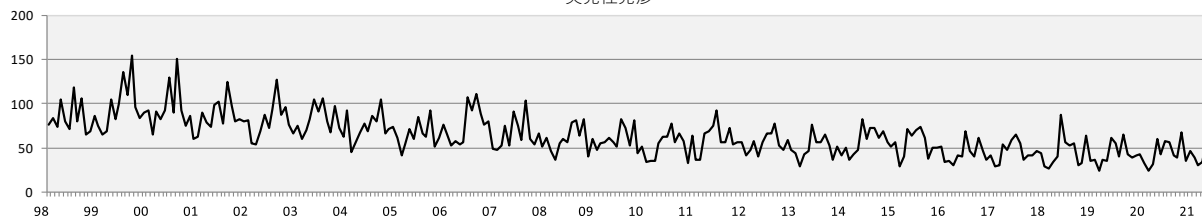
定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								0.02	0.09
小児科	咽頭結膜熱		0.72	1.10		0.50	2.80	1.07	0.40	0.64
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.43	1.43	0.66	3.50	1.80	1.46	0.67	5.50
	感染性胃腸炎	8.50	28.71	40.67	42.66	5.50	8.00	27.25	7.24	5.32
	水痘		0.14	0.66		1.00	1.20	0.53	0.78	1.33
	手足口病	0.50	0.43	0.33	0.33	0.50	0.40	0.40	0.64	1.06
	伝染性紅斑		0.28	0.11				0.11	0.29	1.12
	突発性発疹	1.50	1.72	3.12	2.00	6.00	0.40	2.25	1.21	2.15
	ヘルパンギーナ		0.71	2.43	5.34	1.00	3.60	2.25	2.04	0.08
	流行性耳下腺炎			0.44	0.33		0.20	0.22	0.11	0.36
	RSウイルス感染症			0.56			0.20	0.22		0.72
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			3.00				0.99	0.33	0.33
STD	性器クラミジア感染症			0.50				0.17	1.00	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								0.17	0.33
	淋菌感染症		0.50				0.50	0.33		
基幹	細菌性髄膜炎		1.00	0.20				0.26		
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.20				0.26	0.26	1.76
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)									0.13
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		2.00	2.40			2.00	2.00	3.13	1.75
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌 感染症									
小児科定点分計		10.50	34.14	50.85	51.32	18.00	18.60	35.76	13.40	18.37
前月		10.50	8.68	18.70	6.33	16.00	14.80			
前年同月		13.50	11.28	25.42	17.86	21.00	16.60			

注目される疾患別月別推移

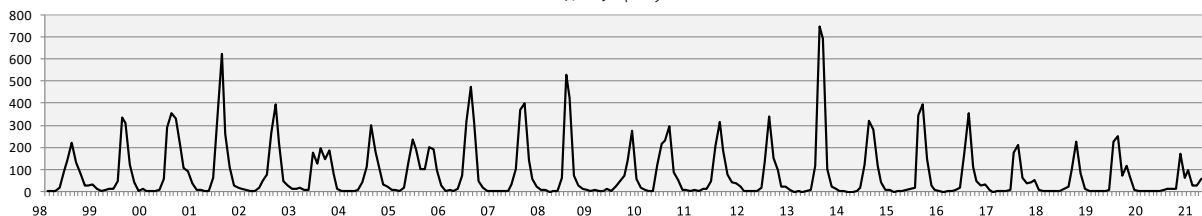
感染性胃腸炎



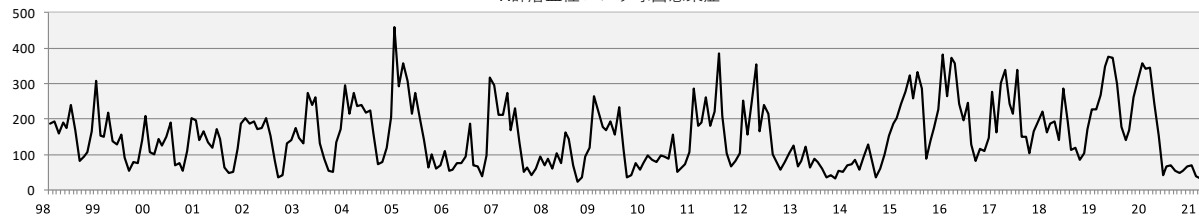
突発性発疹



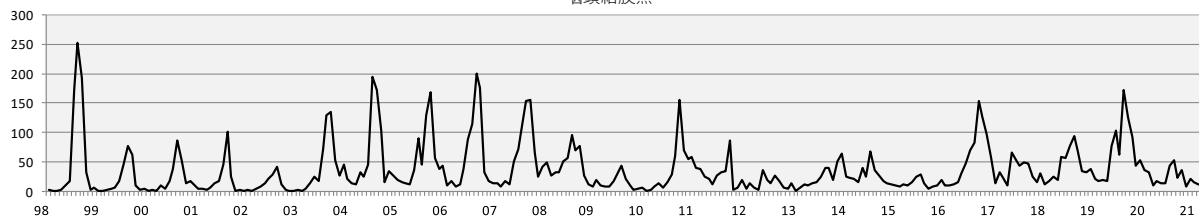
ヘルパンギーナ



A群溶血性レンサ球菌感染症



咽頭結膜熱



流行性角結膜炎

